帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

大阪府　A監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国
【実習生の職種】機械・金属製品製造、建設、溶接

【ポイント】 ✓帰国後もＳＮＳで交流を重ね、技能実習３号としての再来日を橋渡し
✓修得した溶接の技能を活かし、本国で起業

SNSでの継続的交流を通じ、3号で再来日した事例

監理団体では、帰国後の元実習生がSNSに投稿した近況などにコメントしたり、SNSを通じて連絡があった場合はすぐに回答するなどして交流を重ねている。元実習生からの連絡で多いのは、「技能実習3号で日本に戻りたいという」要望で、監理団体では、このような要望を受けた場合、元実習先や送出機関と連絡調整しながら、受入れ手続に尽力している。これまでに3名の元実習生が3号で再来日し、元の実習実施者で実習を行っている。3号実習生は実習先で1号、2号実習生の良き手本として、技能や日本語の指導をしている。

写真①

修得した溶接の技能を活かし、本国で起業

帰国後の起業、さらなる技能修得のため3号で再来日を予定

傘下実習実施者のB社で受け入れたベトナム人実習生は、3年間の実習で溶接の技能を修得し、平成30年に帰国した。帰国後、再就職を検討していたが、日本で修得した溶接の技能を活かして起業をしたいと考え、翌年にハノイ周辺で自宅を改装し会社を立ち上げた。現在では、近隣の機械メーカーから依頼された溶接作業を行っている（写真①、②、③）。

今後立ち上げた会社の事業展開のため、さらなる技能修得を目指して3号での再入国を希望しており、監理団体としては、以前の実習実施者に連絡を取り、橋渡しをする予定である。

写真②

写真③

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

愛知県　C監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、フィリピン
【実習生の職種】機械加工、仕上げ、電子機器組立て、プラスチック成形、溶接

【ポイント】 ✓技能実習で修得した溶接技能を活かして母国で会社を設立
✓実習生の帰国後の就職を積極的に支援

写真①

会社の作業場

写真②

大型製品

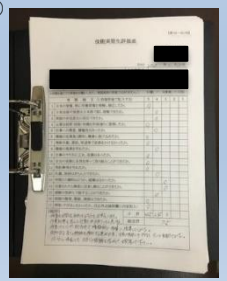
帰国後に日本で修得した技能を活かし、会社を設立

２０１４年に傘下実習実施者のD社で受け入れた中国人元実習生は、中国の造船会社で溶接工として働いていたが、独立したいという将来像を描き、それを実現するため技能実習生として来日し、意欲的に溶接の技能修得や日本語学習に取り組み、専門級の技能実習評価試験に合格した。帰国後は元の勤務先から工場の施設を借りて、溶接の仕事を開始し、２０１７年１２月に会社を設立した。現在、親会社から日本企業に出荷する製品の作製を受注したり、中国のメーカーから依頼された仕事を引き受けている。中国では大型製品の溶接技術を有している会社が少ないところ、その技術を持っている元実習生の会社では、それが強みとなっている。そして、今後さらに事業を拡張していきたいとしている（写真①②）　。

技能実習生の就職支援に関する取組

監理団体では傘下実習実施者にお願いして、実習生一人一人の３年間の評価表を作成してもらっている（写真③）。これは監理団体設立当初から続けているもので、実習生から依頼があれば、その評価表をもとに就職を希望する会社への紹介状を作成している。今後、技能実習３号へ移行する実習生が増加すると予想される中、評価表は実習生の就職等に役立つものと考えている。また、厚生労働省のホームページに掲載されているテンプレートを活用して、技能実習修了証明書を発行するなど実習生の就職を積極的にサポートしている。

写真③



実習生の評価表

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

大阪府　E監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、キルギス
【実習生の職種】とび、建設機械施工、婦人子供服製造、機械加工、工業包装、介護等

【ポイント】 ✓実習実施者が母国に新設した会社に就職して、技能実習で修得したことを活かし活躍
✓送出機関と連携して、元実習生の帰国後の就職状況を把握

写真①

写真②

実習実施者がベトナムに新設した会社（工場）

技能実習先がベトナムに新設した会社に採用され、工場長に昇進

傘下実習実施者のF社で溶接の技能実習を行ったベトナム人元実習生は、帰国後、F社が2018年に設立した建設機械製造会社に就職した （写真①②③）。元実習生は就職したその会社において、仕事の技能や日本語能力が評価され、2019年に工場長に昇進した。工場長に就任後は、社員への溶接技術教育、社員の指導・管理、生産管理及び日本の会社との連絡業務等を担い、同社の発展と溶接の技術移転のために尽くしている。そして、管理者としてのマネジメントスキルを身につけるため、「企業内転勤」の在留資格で来日し、管理職のノウハウを学ぶほか、溶接技術を更に向上させるための努力を続けている。

写真③

ベトナム人元実習生

元実習生とＳＮＳを通じて連絡体制を維持

監理団体では実習生の帰国後半年以内に元実習生の帰国後の就職状況について、送出機関に依頼し聴取してもらっている。それと同時に元実習生と監理団体の通訳人を通じてＳＮＳで連絡を取り合い、帰国後の状況を確認している。また、現地で実習希望者と面接をする機会があれば、元実習生に連絡を取り、現在の状況を確認したり、技能実習の説明会に同席してもらい、日本での生活や技能実習についての話をしてもらっている。

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

島根県　G実習実施者

【実習生の国籍】タイ、フィリピン
【実習生の職種】プラスチック成形

【ポイント】 ✓技能実習生が帰国後、修得した技能や知識を十分に活かして働けるよう就職先を紹介
✓帰国後も元実習生との連絡体制を維持

帰国後、技能実習で培ってきた経験や知識を活かして、即戦力として活躍

監理団体傘下企業のG社は、自動車の窓枠を製造している。最近はオートメーション化が進んだことで、女性も多く就業するようになっている。

同社でプラスチック成形の技能実習をしたタイ人実習生の女性は、帰国後、同社が紹介した日系企業に就職し、実習で修得した技能を活かせる作業に従事している。タイは東南アジアのハブ的存在で、日系の自動車メーカーが多数進出しているが、その下請けとなる部品メーカーは、タイの企業でなければ設立することができないので、外国企業が現地企業と共同で設立した部品メーカーも多い。同元実習生が就職した企業も、日本の企業がタイの企業と共同設立したもので、自動車の一次下請けとして部品の製造をしている。この企業は数年前まで従業員が1,000人規模であったが、現在は倍の2,000人規模にまで急成長をしている。

同元実習生は、この企業から即戦力として重宝されており、リーダーシップもあるので作業現場を任せられる存在となっている。また、日本語の会話ができるので、日本人の幹部社員とタイ人社員のコミュニーケーションの橋渡し役としても活躍している。同元実習生は技能実習で培ってきた経験や知識を活かして、やりがいのある仕事ができると喜んでいる。

SNSで元実習生たちと連絡を取り合い、関係性を維持

同社では、技能実習期間中、１グループ5人から6人のグループをつくり、その中から１人のリーダーを決めている。そして、そのリーダーを介し、ＳＮＳにより連絡を取り合っているところ、実習が修了して帰国した後も引き続き連絡を取っている。元実習生から近況についての写真が送付されたり、結婚式に招待されるなど、帰国後も家族のような交流をしている。

同社では、実習期間中、実習生の家族から大切な身内を預かっているということを忘れず、実習生を大事にしたいと考えている。実習生には日本で有意義な３年間を過ごしてもらい、帰国後、技能実習で修得したことを活かして活躍できるよう今後も支援していきたい。

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

岐阜県　H監理団体

【実習生の国籍】中国
【実習生の職種】婦人子供服製造、機械加工、機械検査、電子機器組立て、プラスチック成形

【ポイント】 ✓技能実習で習得したことを活かして、母国で活躍
✓監理団体は元実習生とＳＮＳを利用して関係性を構築

写真①

縫製工場の見学

写真②

元実習生同士で共同経営

技能実習で修得したことを活かし、会社を経営する元実習生たち

２０１３年に傘下実習実施者のI社で縫製の技能実習を修了した中国人元実習生は、帰国後に夫と一緒に縫製会社を設立した。当初は従業員が１０数名の会社だったが、現在600名の従業員を抱える規模にまで会社は成長している。監理団体では日本のアパレルメーカーを紹介するなど関係を維持しており、昨年６月には会社を訪問して、工場を見学させてもらった（写真①）。

また、２０１６年に傘下実習実施者のI社で機械加工の技能実習を修了した中国人元実習生は、帰国後就職し、実習と同じ仕事をしていたが、２０１７年に機械加工の会社を起業し、２０１８年からは実習同期で優秀だった元実習生と共同経営をしている。現在、監理団体が紹介した日系企業や上場機械メーカーとも取引をしており、高い技術力を持つ会社として順調に運営されている（写真②）。

SNSで元実習生たちと連絡を取り合い、関係性を維持している

監理団体では技能実習を修了した実習生に対し、修了記念アルバムと想い出の写真をちりばめた記念の楯を贈呈している。監理団体は実習生との縁を大切にし、成長を見守っていきたいと考えている （写真③）。監理団体は中国人元実習生たちとＳＮＳを通じて、情報交換や近況報告をしてもらうなど連絡を取り合っている。中国の春節の前日（大晦日）には、監理団体主催でＳＮＳを利用したクイズゲームを実施している。毎年、元実習生３００人以上が参加し、楽しんでもらっている。また、年に１回か２回、中国で交流会を開き、元実習生たちとレストランなどで会食をしている。同窓会の結成も支援しており、監理団体職員も毎年出席している。元実習生とは帰国後も関係を維持しており、相談があればサポートができる体制をとっている。

写真③

修了記念アルバム「縁」

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

岐阜県　K監理団体

【実習生の国籍】ベトナム、中国
【実習生の職種】機械・金属製品製造、食料品製造、繊維・衣服、農業、塗装、介護

【ポイント】 ✓修得した技能等を活用し、本国で起業
✓海外進出の際、技能や経験を身につけた元実習生を幹部登用

写真①

M社ベトナム工場

写真②

マネージャーとして活躍する元実習生（手前左）

帰国後の起業につながった事例

平成20年に傘下実習実施者のL社で受け入れた中国人元実習生は、技能実習を通じて機械加工の技能を修得し、帰国後は、同業種の企業に就職した。就職先において、日本での経験や修得した技能を基に、機械部品や金型部品の研究に勤しんだ。

その結果、平成28年に中国で工業関係の会社を設立するに至り、加工機、マシニングセンター、NC旋盤の最新設備を日系企業等に提供する業務を行っており、L社とも取引を行ったこともある。調査時（平成30年）では、35名の社員を雇用するまでに成長している。

L社においては、企業の基本方針として「人づくり」の重要性を掲げており、さらに企業理念では、「モノ（製品）を作るのは人であり、人の向上こそがモノ（製品）の向上、さらには社員の生活向上、社会の発展貢献へと繋がる」と謳っている。この事例においては、中国人元実習生が、実習先で修得した個々の技能を活用したのみならず、同社が日本で実践してきた「人づくり」の精神を母国で活かし、企業経営に成功したものといえる。

海外進出時における幹部人材への登用となった事例

傘下実習実施者のM社では、ベトナム人実習生を受け入れ、塗装職種の実習を行っており、実習生たちは、塗装の実習を通じ、環境保全・品質確保を目指したマネジメントプログラムの業務経験も積み重ねている。

同社が平成30年にベトナムに工場を開設した際、帰国した元実習生を幹部人材として採用し、彼らは工場立ち上げに尽力した。その後、工場が本稼働し、元実習生は現地採用職員の指導的役割を担っている（写真①、②）。

元実習生のうち1名は、日本に戻り、3号実習生としてM社で実習を行っており、さらなる技能の熟達に励んでいる。

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

静岡県　N監理団体

【実習生の国籍】ミャンマー、ベトナム、 モンゴル、中国、フィリピン
【実習生の職種】ハム・ソーセージ・ベーコン製造、そう菜製造業、電子機器組立て、プラスチック成形

【ポイント】 ✓技能実習時から関係性を構築し、帰国後も連絡を取り合いサポートを継続
✓元実習生へのフォローアップが実習生の受入体制の見直しにもつながっている

写真①

SNSで結婚の報告を受ける

写真②

元実習生たちとの食事会

実習生が帰国後もサポートを継続

監理団体は元実習生たちと技能実習時からＳＮＳにより緊密な連絡を取っていたので、実習生が帰国してからもＳＮＳを通じて、「結婚した」、「子供が生まれた」といった近況報告を受けたり、相談に応じたりしている（写真①）。例えば、ミャンマー人の元実習生から、「専門級の試験を受けていない（※）が、技術を高めるため、技能実習３号の在留資格で再び技能実習ができないか」という相談があった。そこで、監理団体は、技能実習３号の在留資格取得のため、実習実施者と一緒に元実習生の渡航や滞在の費用を負担し、所定の技能実習評価試験の合格を目指してもらうことにした。それにより、元実習生は来日することが可能となったので、希望を叶えるため、元実習生は実技試験合格に向け母国で練習に励んでいる。（※旧制度では実習終了時の技能検定等の受検は推奨されていたが、義務ではなかった。）

実習実施者と元実習生との橋渡しの役割を担う

監理団体は実習生の母国で面接を実施する際には、実習実施者と元実習生たちとの食事会を開催している（写真②）。実習実施者は他の会社の元実習生とも会食をし、日本で実習していた時の様子や帰国後の状況を質問している。実習実施者の担当者からは「他の会社の元実習生から直接話を聴くことで、自社の実習生の指導や管理にあたり参考になった」、「自社の実習生が帰国後、自社で実習をして良かったと話してもらえるよう頑張りたい」等の意見が聞かれた。
監理団体の元実習生に対するフォローアップが、実習実施者の実習生受入体制の見直しにもつながっている事例である。

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

静岡県　O監理団体

【実習生の国籍】ベトナム
【実習生の職種】耕種農業、鉄筋施工、とび、建設機械施工、水産練り製品製造、そう菜製造業、婦人子供服製造、紳士服製造、機械加工、鉄工
プラスチック成形、塗装、溶接、ビルクリーニング 他

【ポイント】 ✓元実習生との関係を構築、維持するため、元実習生の母国で交流会を開催

交流会を通じ、元実習生との関係性を維持

監理団体では毎月1回、ベトナムにおいて、元実習生との交流会を開催している。開催場所は送出機関の所在地でもあるハノイにしている。交流会を始めたきっかけは、監理団体内部から、技能実習が修了したら、それで実習生との繋がりがなくなるというのもどうかという意見が出たためである。交流会には当初、元実習生、実習先企業と送出機関の職員が参加していたが、回を重ねていくうちに、元実習生から、家族にも会って欲しいという要望があがるようになった。そこで、元実習生たちの家族を交流会に招待し、一緒に参加してもらうことにした。

交流会では元実習生から、現在の仕事のことや、さらに上を目指すための技能や知識を日本で修得したいといったことについて、相談を受けることもある。実際に監理団体で元実習生を支援し、来日が決まった者もいる。

監理団体としては、今後も帰国した元実習生とＳＮＳで連絡を取り合うだけでなく、交流会を開催し、元実習生やその家族との関係性を維持することにより、元実習生の母国での活躍を応援していきたい。

交流会の様子

帰国後技能実習生のフォローアップ・アフターケア等に関する取組好事例

外国人技能実習機構

石川県　P実習実施者

【実習生の国籍】ベトナム
【実習生の職種】製品外観選別（非移行対象職種）

【ポイント】 ✓実習生が技術を習得して、母国で活躍できるようルールや手順に沿った仕事の仕方をすることを徹底

RBA行動規範にのっとり、実習生を高待遇で受入れ

P社では、自社の技能や知識を修得した実習生をベトナムの現地法人で採用することにより、現地法人社員の定着率を向上させようと、監理団体を通して、技能実習生を受入れることにした。同社は、電子機器関連産業の行動規範を定めたRBA（Responsible Business Alliance：責任ある企業同盟）加盟企業のサプライヤーであるため、実習生の受入れにあたってもRBA行動規範にのっとり、報酬体系も手厚いものとした。

ルールや手順に沿った仕事の仕方を徹底

技能実習の内容は、製品外観選別で、製品の良否を目視により判断し、不良品流出を防止すると共に、設計や製造へのフィードバックを目的とした不良情報の収集・蓄積を主な業務とした。技能実習はシフト勤務であったが、出勤率は99.8%と高く、修得も早かったため、職場でも大変高い評価を得ていた。また、実習生は日本語能力を高めるために地域学習センターに通うなど、教育委員会でも評判だったようである。同社では、実習で学んだ技術を母国で活かしてもらうために、わからないことがあった場合は自分の勝手な判断や考えで仕事をするのではなく、上司である監督者に聞いて確認する、または翻訳された作業標準書を読んで確認するなど、ルールや手順に沿った仕事の仕方を徹底するようにした。技能実習の最終日には技能実習報告会を実施し、技能実習で得たことや日本での生活についての感想を発表してもらった。多くの実習生が「帰国したくない」、「また、工場で働きたい」と涙を浮かべながら話をしていたことが印象的であった。

実習経験を活かして母国で活躍、将来のリーダー候補

元実習生のQは、帰国後、同社の現地法人に入社し、製造ラインの仕事を任されている。Qは技能実習の経験を活かして働いており、製造現場における業務の習熟も早い。そして、規律正しく、周りの社員の手本となるような態度とスキルを発揮しているので、会社から将来のリーダー候補として期待されている。